

復活月曜日 13/04/2020 教皇さまミサ サンタマルタ聖堂

祈りの意向

このパンデミック後の出口を模索し始めている科学研究者、政治家のために祈りましょう。このパンデミック後はもう始まっています。彼らが正しくいつも人々のためになる道を見つけられるように祈りましょう。

お説教

今日の聖書箇所は私たちが毎日しなければならない人としての選びについて語っています。つまりこの墓からのイエスの復活の出来事以降の選択：イエスの復活の喜びと希望か、墓へのノスタルジーかです。

婦人たちは福音を告げるために先頭に立って進みます。神はいつも婦人たちと共に始めるのです。彼女たちが道を開けるのです。彼女たちは疑わず、知っていて、それを見ました、それに触れました、彼女たちは空の墓を見ました。弟子たちが信じる事が出来なかったのは事実です。彼らは彼女たちがなにか幻想でも見たんだろうと思いました。

彼らは疑っていました。彼女たちは違います。彼女たちは確信して、イエスは復活して私たちの間に生きていと告げるため今日にいたるまで先頭に立って進みます。そして空の墓と共に生きるない方がいいだろうという選択肢が出てきます。そこには事実を隠した決定があります。いつもの通りです。神に仕えないなら、もう一人の主、お金に仕えるのです。

イエスが言ったことを思い出しましょう。二人の主人がいる、神である主人と、お金である主人です。二人の主人に仕えることは出来ません。これが明らかなのは、この実際に起こったこととして、司祭たちや律法学者は神を売る道を選びました。お金です。そして（イエスの復活の）証人たちが沈黙のするために支払ったのです。

兵隊の一人がイエスが死んだ時に言いました。「本当に彼は神の子だった。」可哀そうな兵隊たちは分かりません、自分たちの命が危うくなると恐れます。彼らは律法学者に会いに行きそして律法学者は彼らを黙らせるためにお金を払いました。これは真の不正です。

もしもイエス・キリストが主であると宣言できないなら、どうしてなのか自問してください、あなたの墓の印はどこですか、どこに不正がありますか。多くの人がイエスを主と認めないのは事実です。なぜなら彼らはイエスを知

らないからです。ちゃんと知らされていないからです。これは私たちの過ちです。しかし、知っていて、このもう一つの道を選ぶのなら、これは悪魔の道です。不正の道です。支払うから黙っていなさい。

今日もまたこのパンデミックの終息を願うことにおいて、私たちは二つの道があります。私たちの賭けは命となるであろうか、人々の復活になるであろうか、もしくはお金を神にしたものではないだろうか、墓に戻るのか。飢餓、奴隷制、戦争、武器の製造、教育を受けられない子ども達であるその墓に。